

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー共訳『レコード・マネジメント・ハンドブック』森本祥子、平野泉、
松崎裕子編訳、日外アソシエーツ、2016年。⑧

第8章 レコード・マネジメントを導入する：実務及び管理上の諸問題

①－1 レコード・マネジメントを導入するという組織トップの意思決定を得る

①－2 上層部を納得させ、ニーズを可視化するための調査

①－3 導入対象と範囲を決定する

古いレコードのみか新規作成のレコードも取り込むか、組織全体か一部の範囲のみか

①－1 方針を確立する

| | 構成要素 | 記述事例 |
|---|-----------------------------------|--|
| 1 | 法律または既定の枠組み、またはほかの標準やベストプラクティスの参照 | 「私たちの RM プログラムは『～』と『』を満たすことを目指す。～団体としては、『～』に基づき、市民が知る権利を有するレコードを維持し、利用可能にする」 |
| 2 | プログラムの目的と領域 | 「プログラムの目的は、証拠と情報の源として、すべての媒体と組織各部門のレコードを包括する、私たちのレコードを効果的に管理することである」 |
| 3 | プログラムの主な目的 | 「プログラムの目的は以下のことを確実に行うことである： ・業務活動上のレコードが適切に作成されること ・ ・ ・ ・」 |
| 4 | レコード・マネジメントの責務 | 「プログラム実施の責務は～が担う。～はすべての部署に RM サービスを提供し、職員は全員、レコードの適切な管理に責任があり、～の手続きやガイダンスに従うべきである。～のスタッフは十分なサポートなどを提供し、水準についてモニターする責務がある。さらに～は、包括的な業務を行うために、～部と密に連携して働く」 |

| | | |
|---|-----------------------|--|
| 5 | 専門用語の定義 | 「当方針においては、レコードとは、業務活動の記録された証拠をなすドキュメントあるいはデータを意味する」 |
| 6 | 個別のポリシーやほかのより詳細な文書の参照 | 「レコードの取り込み、媒体変換、マイグレーションについてのポリシー・ガイドライン、およびレコードに関する手続きマニュアル、分類スキーム、リテンション・スケジュール等に関する方針は、イントラネットで参照できる」 |

①－2 導入期の責務を明確にする

上級管理職が関わることが、プロジェクトの成功の重要な要素となる。委員会や方針制作グループには主要なステークホルダーを呼び集めておく必要がある。

② 計画と仕組みを開発する ISO15489-1:2001 8.4 (AS4390.3-1996 6.2.2)

- ・予備調査
- ・業務活動の分析
- ・レコード尾の要件を特定
- ・既存システムの評価
- ・レコードの要件を満たすための戦略の特定
- ・レコード・システムの設計
- ・レコード・システムの実装
- ・実装後の再評価

詳細なガイドラインは『レコードキーピング・システムの設計と実装（DIRKS）』（オーストリア国立公文書館、2001 年）、『効果的なレコード・マネジメント：BS ISO15489-1 の実施（PD 0025-2:2202）』（イギリス規格協会）を参照

②－1 予備調査と業務活動の分析

第一に組織の役割、目的、置かれた環境を理解し、その組織構造、機能、プロセス、活動を分析すること。なぜその組織が存在し、どのような製品やサービスを提供してきたか、現在・将来・過去の経営手法の在り方など。（第 2 章）

②－2 レコードの要件の識別

レコードの作成と維持の要件を規定する、法律、規則、組織の業務、アカウンタビリティ、文化的ニーズ、地域社会のニーズ、組織内のコンプライアンス・プログラム、組織外のステークホルダーのニーズ。また、ニーズを満たすためのコストと満たされない場合のリスク。

②-3 既存システムの評価

既存のレコードと将来にわたり作成されるレコードをも対象とする管理計画の立ち上げのためには、レコードの調査を行う。

SWOT 分析

Strength

Weakness

Opportunities

Threats

| 内部的要素 | 外部的要素 |
|-------|---------|
| 長所 S | 有利な条件 O |
| 短所 W | 脅威 T |

②-4 レコードの要件を満たす戦略の確認

- ・方針、標準、ガイドライン、手続き、実践に取り入れる。
- ・手続きを習慣化し、モニタリングする。
- ・当初の方針が拡大され、改定の必要性が生じる。

③ システム設計と人的資源・財源の明確化

④ 実施の計画と管理

- ・実行する優先順位を決める。
- ・評価選別基準を定め、余分なレコードを取り除いて既存のシステムをスリム化する。
- ・既存のスキーム時に分類されたレコードはそのままで、新たなスキームとともに、二つの体系を数年間の間は、多くの場合、同時に運用することが必要。しかし、旧スキームの不備により既存レコードの管理が妨げられる場合は再分類に取り掛かるべき。

⑤ 導入後の再検討

⑥－1 将来に向けた計画と変化への対応

⑥－2 能力、理解、認識をうながす

⑦ レコード・マネジメントを記録する